

運輸安全委員会委員長 武田 展雄 殿

航空安全推進連絡会議
議長 梅津 浩
東京都大田区羽田5-11-4
TEL:(03)3742-9359
FAX:(050)3737-2918
e-mail: hq@jfas-sky.jp

民間航空の安全確保に関する要請書 (追加要請)

私たち航空安全推進連絡会議は、航空の安全を最大の課題にパイロット・客室乗務員・整備士・管制官・気象予報官・グランドハンドリングなど日本の民間航空のあらゆる分野に働く労働者46組合約10,600名で組織し、上部団体を問わず官民一体となって、過去52年に渡って活動している団体です。

2018年4月11日に東京国際空港近傍にて発生したタイ国際航空機による重大インシデント（ボーイング747-400型機）については、現在も貴委員会によって事故調査が行われていることは私達も承知しております。

現在の東京国際空港における進入/着陸方式は、世界標準の国際空港と比較しても複雑で難易度も高く、昼間時間帯のLDA APPにも多くのThreatが潜在していることは既に航空局へ指摘してきました。さらに深夜時間帯の南風運用時において実施されるVOR-Aアプローチは、近年の国際空港ではほぼ皆無となっている周回進入方式であり、操縦士の技倆のみに依存するのは安全上の問題が極めて高いと考えます。

つきましては、事故調査の過程において以下の点を十分に考察した上で調査報告書を作成するよう強く要請いたします。

J05	5	事故調査に関わる継続懸案等	A	新規	タイ国際航空機による重大インシデント(2018年4月11日)の事故調査において考慮すべき点について	<ol style="list-style-type: none">1. 東京国際空港における非精密進入が常態化していることの特異性。2. 深夜時間帯における、RWY23 閉鎖時での使用滑走路の運用方法。(着陸滑走路の変更は操縦士の要求のみによって可能となることが操縦士に周知されていないのが現状)3. 騒音対策を重視するあまり、難易度の極めて高い非精密進入方式の設定に限定し、あとは操縦士への技倆にのみ依存しているという安全上の問題。4. 内外航空会社における、非精密進入方式実施に当たっての訓練体制。
-----	---	---------------	---	----	---	---

以上